

**\*1978年(昭和53年)版「東京天文台」パンフレット**

東京天文台パンフレットは手にするたびに記事にしてきた。今回の1978年版東京天文台パンフレットはとっくに記事にしていたと思っていた。1978年といえば1878年に東京大学に観象台ができて100年、東京天文台百年記念の年である。このパンフレットの1ページの沿革の項に「東京天文台は明治11年(1878年)に東京大学理学部の観象台として本郷に於て発足した」とある。この1978年版東京天文台パンフレットは元国立天文台職員の山下芳子氏が2013年4月19日に送ってくれたものである。ほかにも元国立天文台職員の溝原光夫氏からもお送りいただいていたが、アーカイブ新聞を検索して、この東京天文台100年の記念すべきパンフレットを今迄記事にしていなかったことがわかったので今回記事にしておきたい。その表紙が写真1である。



写真1 1978年版東京天文台パンフレット表紙

今でも天文台に天気のことに関する質問があったりするが、東京天文台は気象台と天象台が一緒になった観象台として発足している。1882年(明治15年)に気象台と分離し天象台と改称している。東京天文台となったのは1888年(明治21年)に東京大学天象台、海軍天文台、内務省地理局の天文部門の3者が統合され東京天文台が発足している。

筆者は、この 1888 年を東京天文台の発足の日とするのがいいのではないかと思うが、東京大学に身を置いた人は 1878 年を東京天文台の発足としたかったようである。

写真 2 が第 1 ページ、ここに東京天文台の沿革が書かれている。2 ページ目には当時の現況が書かれている（写真 3）。

目 次	沿 革
東京天文台正門(三鷹)……………表紙	
沿 革…………… 1	東京天文台は明治11年(1878年)に東京大学理学部の観象台として本郷に於て発足した。明治15年(1882年)に気象台を分離して天象台と改称し、更に明治21年(1888年)に旧内務省及び海軍省の天文関係の業務を統合して東京天文台と改称し麻布飯倉に移転した。大正10年(1921年)に天文台官制が制定され理学部付属から大学附置となり、大正13年(1924年)に現在の三鷹の地に移転した。終戦の年、昭和20年(1945年)には本館の焼失で貴重な記録や研究機器を失ったが、戦後急速に復活して戦前にまさる研究活動を行うようになった。
現 況…………… 2	
東京天文台(三鷹)…………… 3-6	昭和23年(1948年)には三鷹国際報時所を統合、昭和24年(1949年)には国立学校設置法の公布により東京大学の附置研究所となり、ついで昭和28年(1953年)には新制大学院の発足により大学院教育に参加し、理学系研究科の天文学課程をも担当することとなった。他方、観測施設の拡充計画により昭和24年(1949年)には乗鞍コロナ観測所、昭和35年(1960年)には岡山天体物理観測所、昭和37年(1962年)には堂平観測所、昭和40年(1965年)には人工衛星国内計算施設、昭和44年(1969年)には野辺山太陽電波観測所、昭和49年(1974年)には木曾観測所、昭和53年(1978年)には太陽活動世界資料解析センター並びに野辺山宇宙電波観測所がそれぞれ開設された。
乗鞍コロナ観測所…………… 7	
岡山天体物理観測所…………… 8	
堂平観測所…………… 9	
木曾観測所……………10	
野辺山太陽電波観測所……………11	
野辺山宇宙電波観測所……………11	
三鷹構内建物等配置図……………12	
施設分布図……………13	
施設一覧……………14	
東京天文台全景(三鷹)……………15	

### 写真 2 1 ページの目次及び沿革

#### 現 況

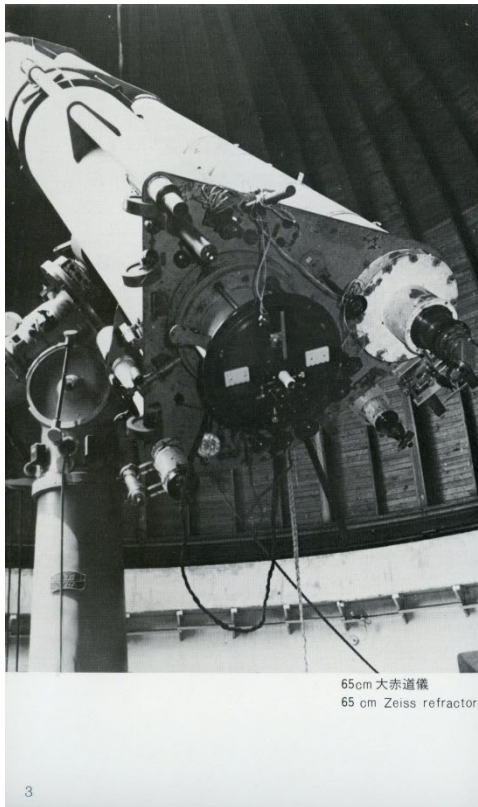
東京天文台は10研究部(天文時部、子午線部、天体掃索部、太陽電波部、太陽物理部、測光部、恒星分類部、人工天体運動部、宇宙電波部、銀河系部) 2室(天文計算室、図書室) 8施設と事務部とから成り、位置天文学、天体物理学並びに電波天文学等の研究観測業務を行うとともに暦書の編成中央標準時の決定及び現示等の業務を行っている。

Tokyo Astronomical Observatory which was founded in 1878 has been a research institute of the University of Tokyo since 1924. It was moved to Mitaka from Azabu, Tokyo, in 1924 and has now seven observing stations outside of Tokyo; namely, Norikura corona observing station with 25 and 10cm coronagraphs and K-coronameter, Okayama astrophysical station with 188 and 91cm reflecting telescopes and 65cm solar telescope ,Dodaira station with 91cm reflecting telescope, 50cm Schmidt-type telescope and lunar laser ranging instruments, Nobeyama solar radio observing station with 160MHz and 17GHz solar radio interferometers, Kiso station with 105cm Schmidt-type telescope and Nobeyama cosmic radio observing station with 45 m radio telescope with five 10m dishes (both under construction).

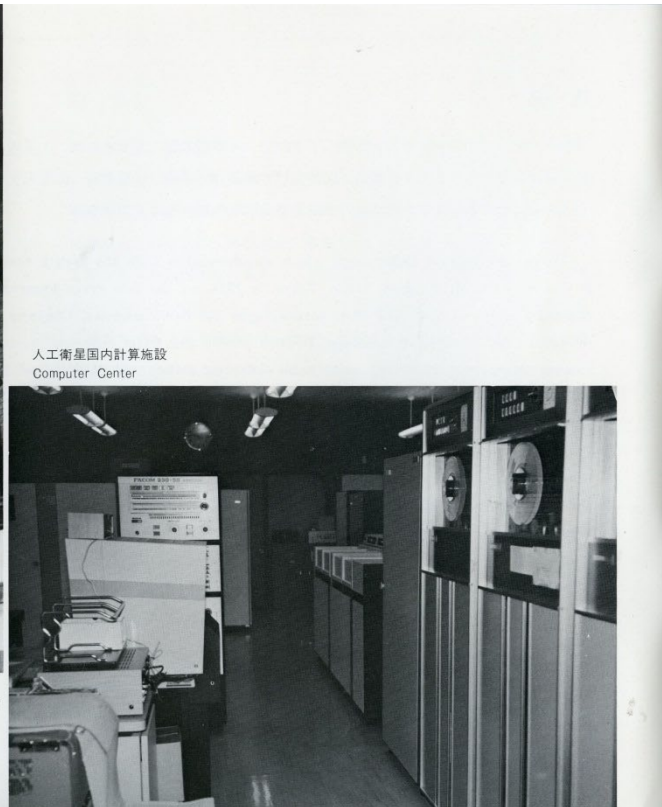
At Mitaka there are observing facilities, laboratories and office buildings described in a separate map and there astronomical researches in various fields such as rotation of the earth, meridian astronomy, solar system astronomy, radio astronomy, solar physics, stellar photometry, stellar physics, celestial mechanics and galaxies. Time-keeping and ephemerides compilation services are also performed.

### 写真 3 2 ページの現況

現況に、10 研究部、8 施設、事務部と書かれ、研究部の部門名があるが、施設名が記載されていない。沿革の項にあるとはいえ、現況に書かれるべきではないかと思う。8 施設は、乗鞍コロナ観測所、岡山天体物理観測所、堂平観測所、人工衛星国内計算施設、野辺山太陽電波観測所、木曾観測所、太陽活動世界資料解析センター、宇宙電波観測所である。

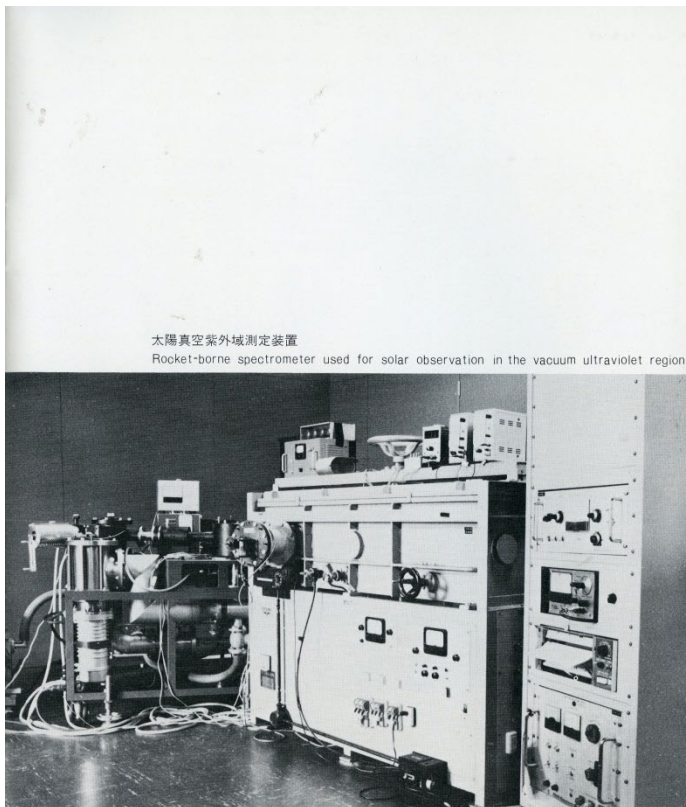


65cm 大赤道儀  
65 cm Zeiss refractor

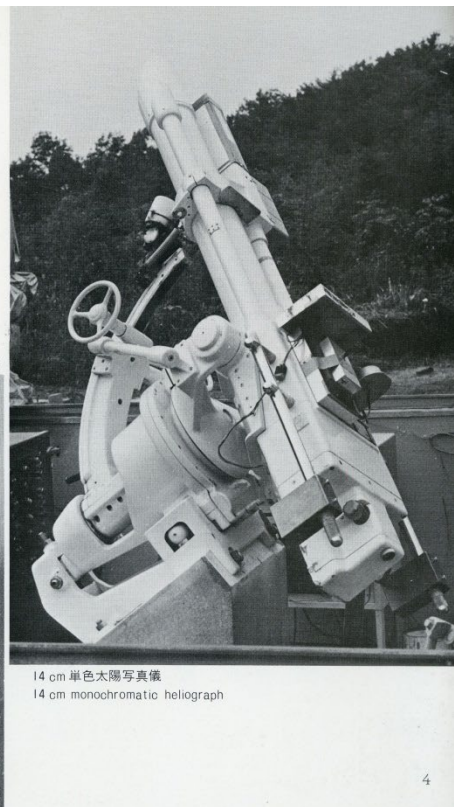


人工衛星国内計算施設  
Computer Center

写真 4 65 cm大赤道儀と人工衛星国内計算施設



太陽真空紫外域測定装置  
Rocket-borne spectrometer used for solar observation in the vacuum ultraviolet region



14 cm 単色太陽写真儀  
14 cm monochromatic heliograph

写真 5 太陽真空紫外域測定装置と 14 cm単色太陽写真儀

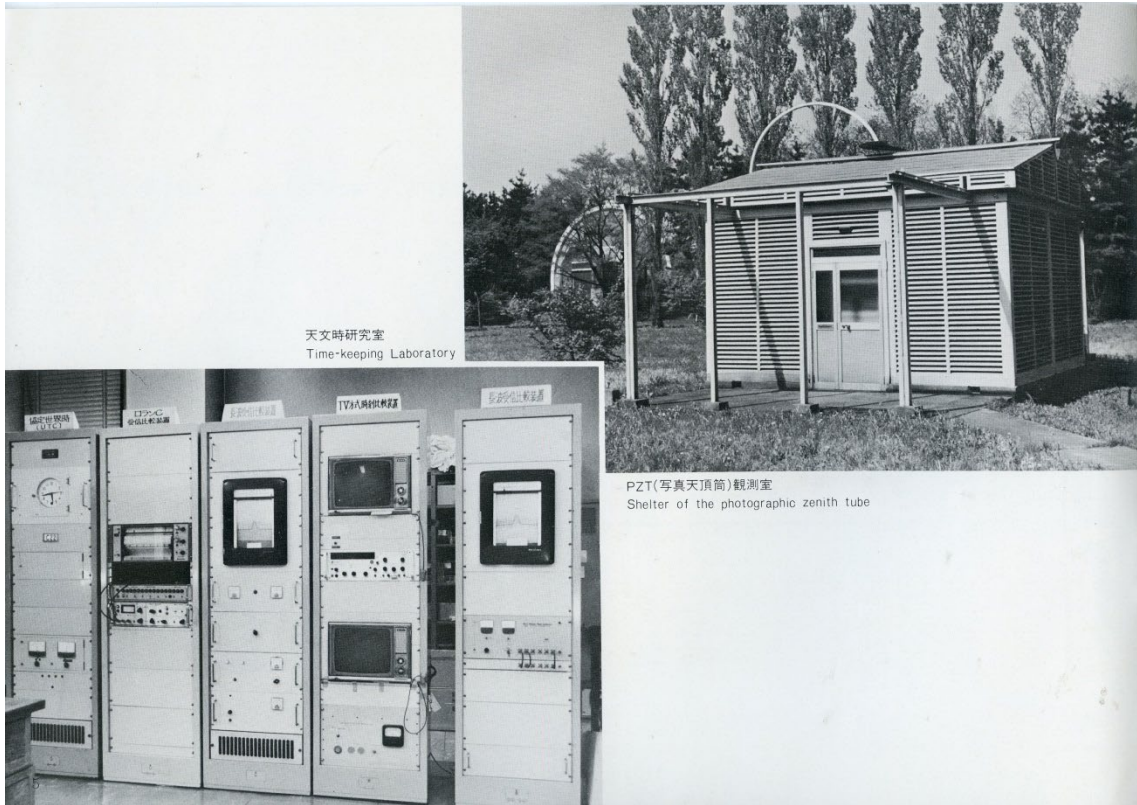


写真6 天文時研究室及びPZT（写真天頂筒）観測室

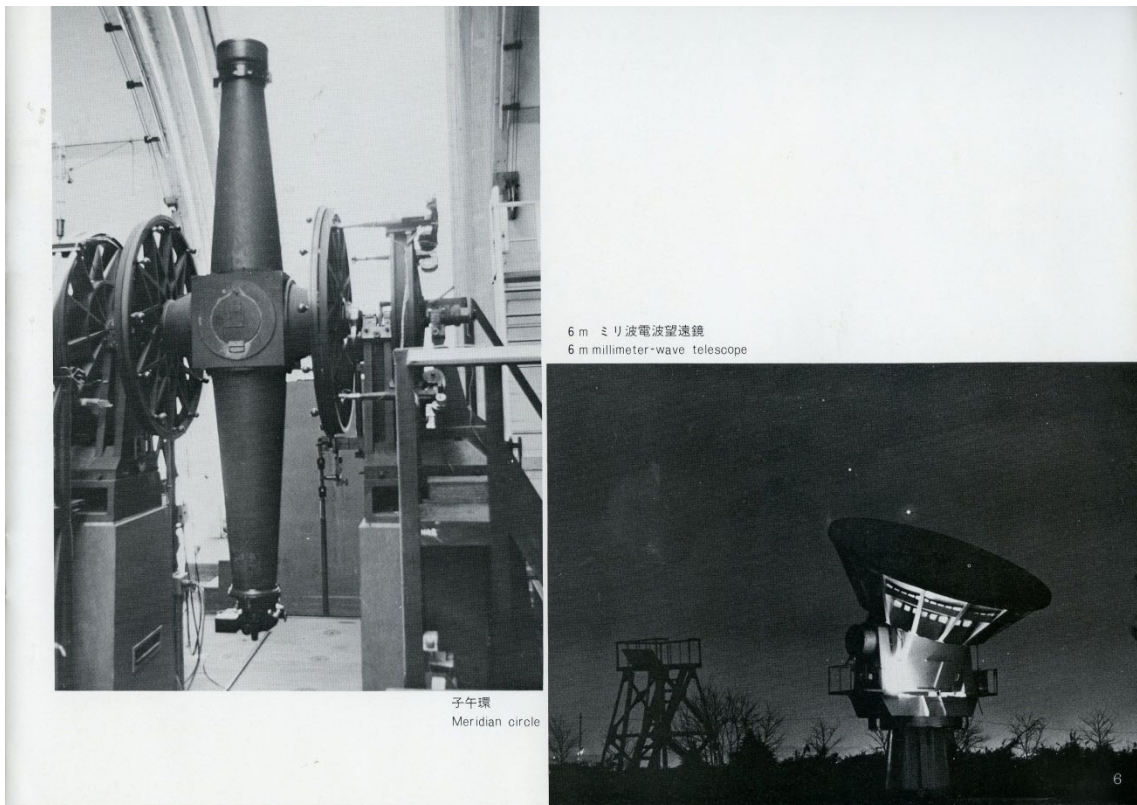
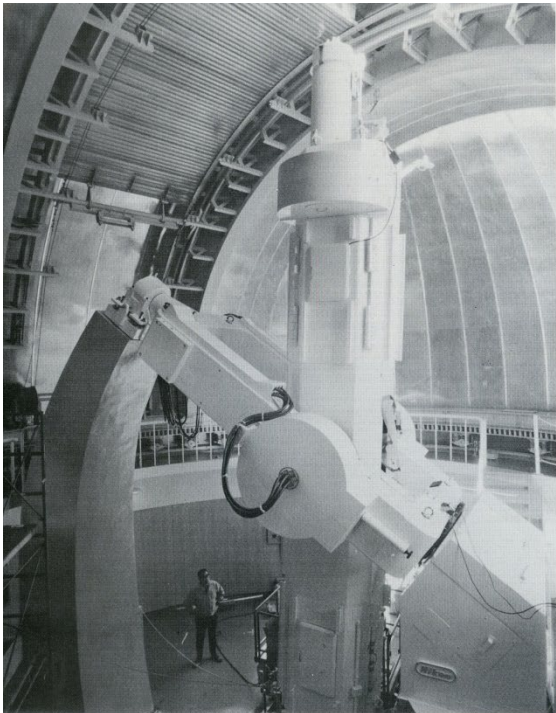


写真7 子午環及び6m ミリ波望遠鏡



25 cm クーデ型コロナグラフ  
25 cm coudé-type coronagraph

7



氷雪に埋もれた乗鞍コロナ観測所  
Winter view of the Norikura Observatory

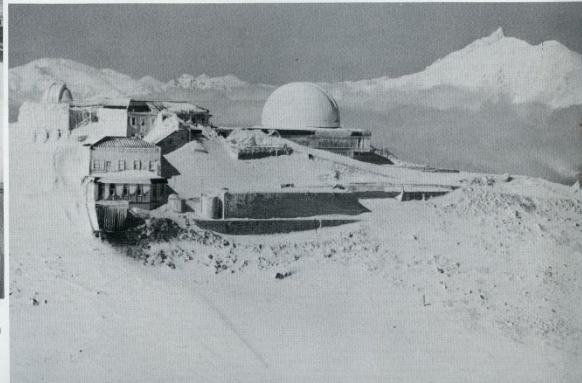


写真 8 25 cmクーデ型コロナグラフ及び雪に埋もれた乗鞍コロナ観測所



188 cm 反射鏡  
188 cm reflector



岡山天体物理観測所(188 cm 反射鏡ドーム)  
Dome of the 188 cm reflector at the Okayama Astrophysical Observatory

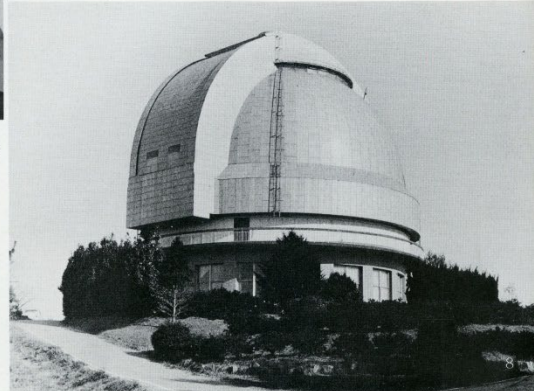


写真 9 188 cm反射鏡及び岡山天体物理観測所 (188 cm反射鏡ドーム)

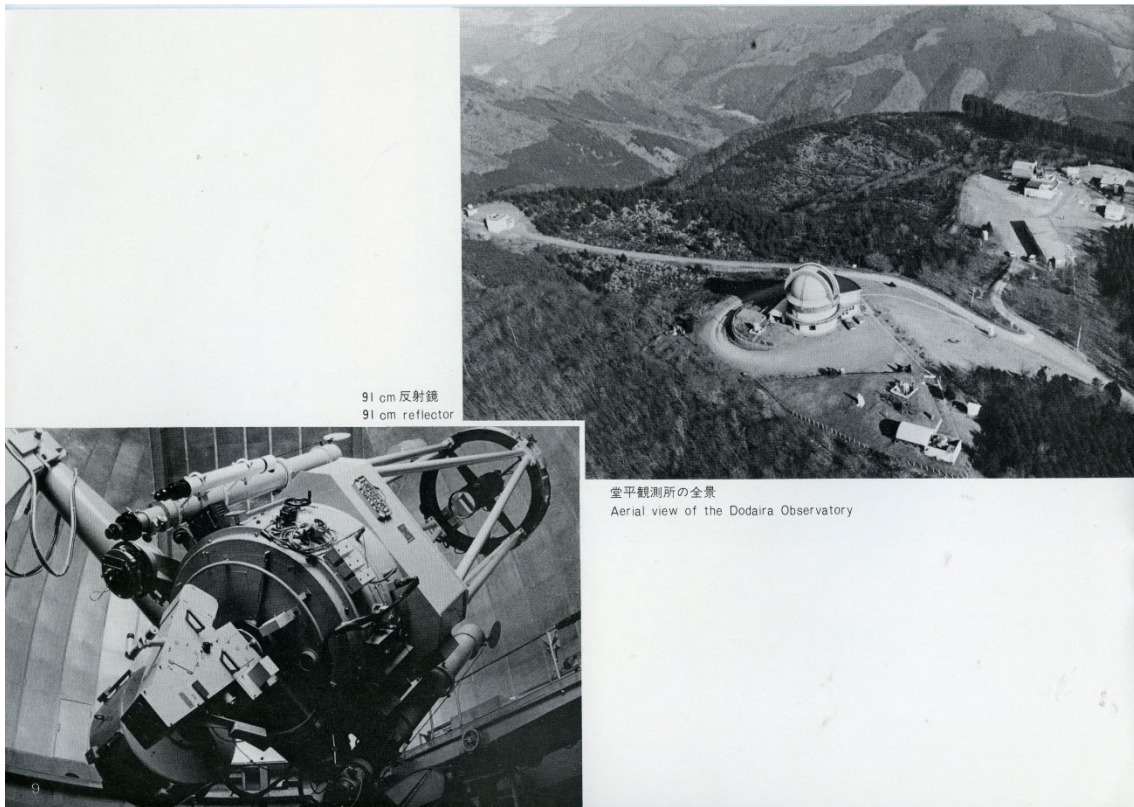


写真 10 91 cm反射鏡及び堂平観測所の全景

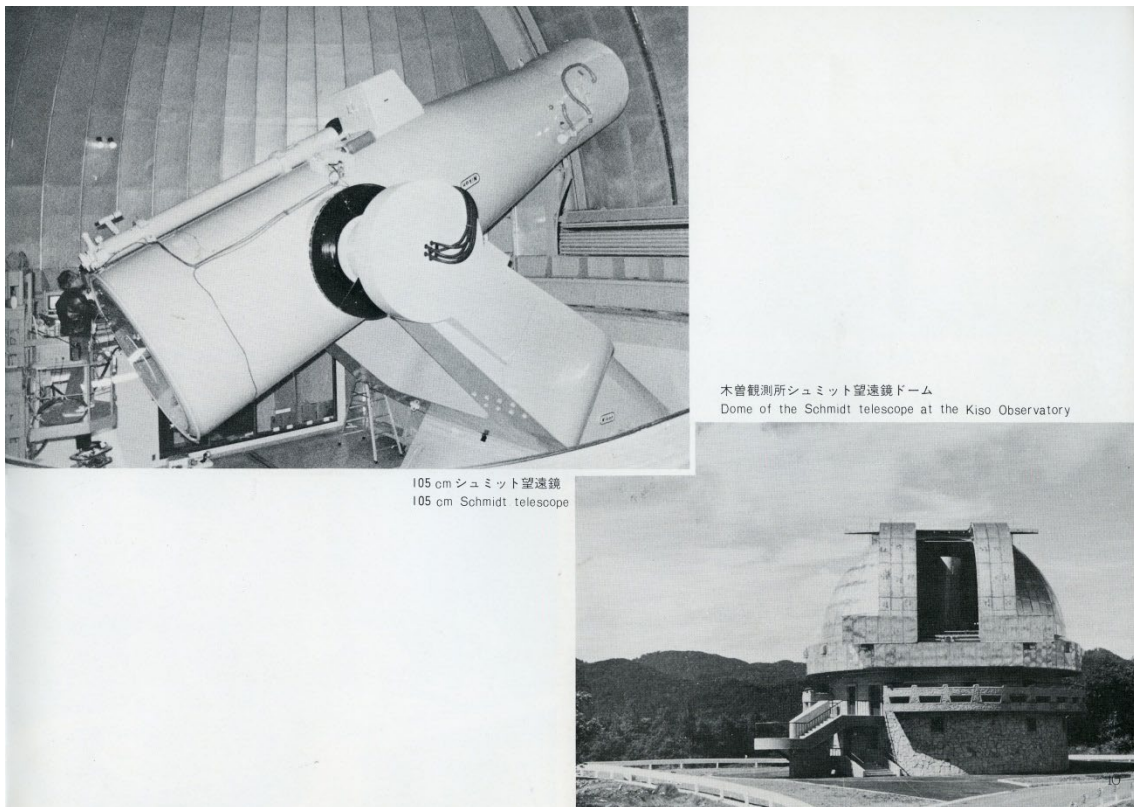
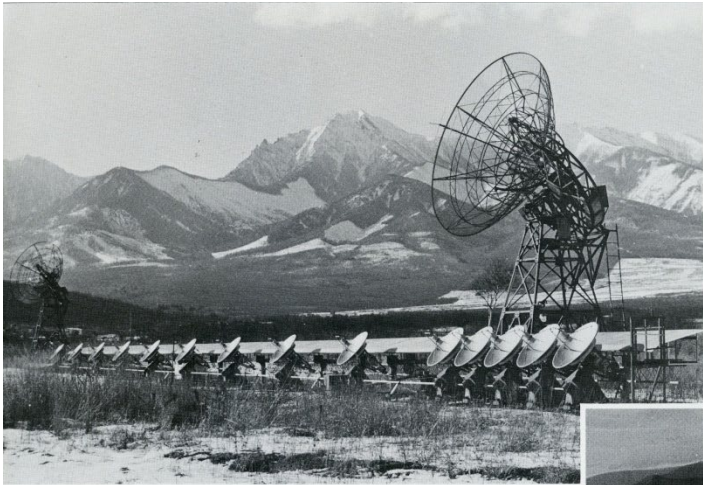


写真 11 105 cmシュミット望遠鏡及び木曾観測所シュミット望遠鏡ドーム



45 m 電波望遠鏡と10 m 5 素子干渉計(完成予想図)  
Artist's painting of 45 m radio telescope and  
10 m 5-element synthesis telescope

野辺山太陽電波観測所の160MHz(後方大型)と17GHz干渉計アンテナ  
Antennas for 160MHz (back side) and 17GHz (front side)  
interferometers at the Nobeyama Solar Radio Observatory

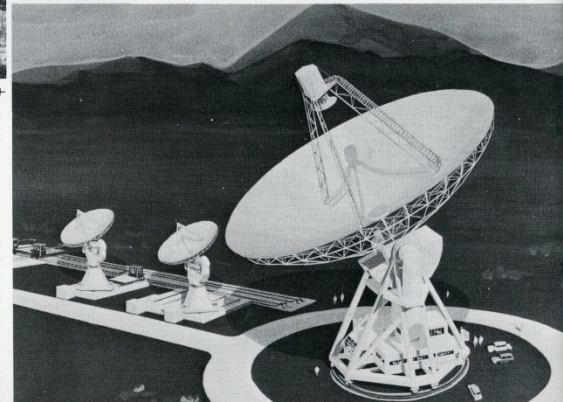
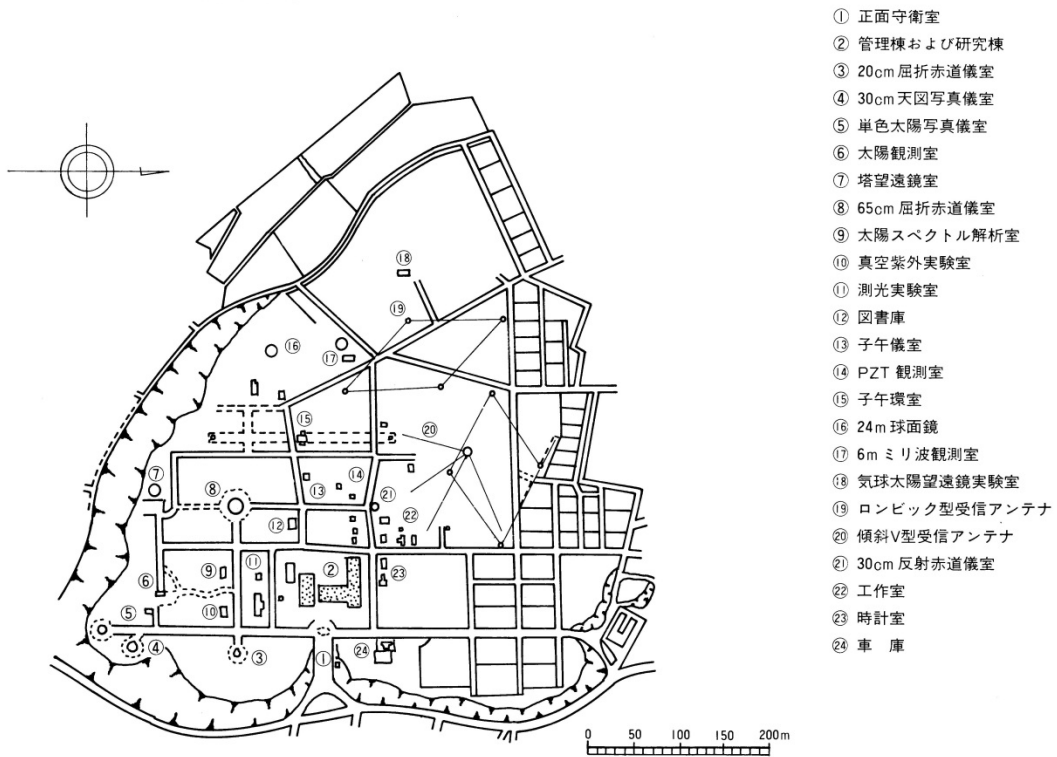


写真 12 野辺山太陽電波観測所の干渉計及び宇宙電波観測所の45m 電波望遠鏡

### 三鷹構内建物等配置図



- ① 正面守衛室
- ② 管理棟および研究棟
- ③ 20cm 屈折赤道儀室
- ④ 30cm 天図写真儀室
- ⑤ 単色太陽写真儀室
- ⑥ 太陽観測室
- ⑦ 塔望遠鏡室
- ⑧ 65cm 屈折赤道儀室
- ⑨ 太陽スペクトル解析室
- ⑩ 真空紫外実験室
- ⑪ 測光実験室
- ⑫ 図書館
- ⑬ 子午儀室
- ⑭ PZT 観測室
- ⑮ 子午環室
- ⑯ 24m 球面鏡
- ⑰ 6m ミリ波観測室
- ⑱ 気球太陽望遠鏡実験室
- ⑲ ロンビック型受信アンテナ
- ⑳ 傾斜V型受信アンテナ
- ㉑ 30cm 反射赤道儀室
- ㉒ 工作室
- ㉓ 時計室
- ㉔ 車庫

図 1 三鷹構内建物配置図

## 施設分布図

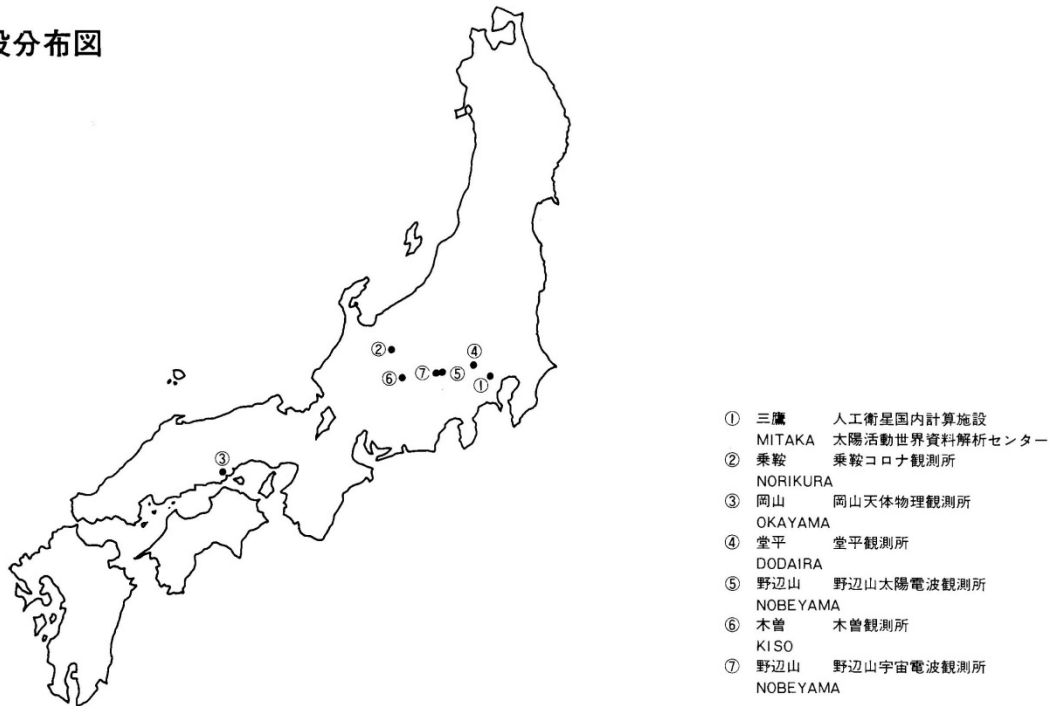


図 2 施設分布図

## 施設一覧

施設名	開設年	法令による設置年	所在地	電話番号
乗鞍コロナ観測所	昭和24年	昭和39年	長野県南安曇郡南安曇村乗鞍岳	0263-33-7455
岡山天体物理観測所	" 35年	" 39年	岡山県浅口郡鴨方町大字本庄	086544-2156(代表)
堂平観測所	" 37年	" 41年	埼玉県比企郡都幾川村	049367-0224
人工衛星国内計算施設	" 40年	" 40年	三鷹市大沢2-21-1	0422-32-5111(代表)
野辺山太陽電波観測所	" 44年	" 45年	長野県南佐久郡南牧村野辺山	02679-8-2034
木曾観測所	" 49年	" 49年	長野県木曾郡三岳村	026452-3360
太陽活動世界資料解析センター	" 53年	" 53年	三鷹市大沢2-21-1	0422-32-5111(代表)
野辺山宇宙電波観測所		" 53年	長野県南佐久郡南牧村野辺山	02679-8-2470

図 3 施設一覧

写真 13 が裏表紙で、当時の東京天文台三鷹キャンパスの航空写真である。この当時はさすがに畑地はなくなっているが、まだ森の木々の繁り方は現在ほどではなく、ポプラ並木が3筋も見えており、自動光電子午環もなく24m球面電波望遠鏡も見える。写真 14 に最近の航空写真を載せておくが、国立天文台の発展が一目瞭然である。しかしながら、1978年の航空写真は懐かしい光景である。





写真 13 裏表紙の当時の東京天文台三鷹キャンパスの航空写真



写真 14 2006 年の国立天文台三鷹キャンパスの航空写真

今年、2016 年、このパンフレットが発行されてから 38 年を経ている。40 年近くたてば随分と代わるもので、このパンフレットに登場している観測施設・装置などで国立天文

台が運用しているものは数少ない。数えてみると1) 岡山天体物理観測所の 188 cm反射望遠鏡、2) 野辺山宇宙電波観測所の 45m 電波望遠鏡の二つしかない。天文学の進歩を感じさせるものである。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)